

イモリ^しって知^しってる？

見^みたことある？

むかしはと^みても身^{ぢか}近^かな

生^いき物^{もの}だ^たった^けど

最^{さい}近^{きん}、東^{とう}京^{きやう}で^は

ほ^みと^んど見^みか^けな^くな^った

ど^うし^てだ^らう[？]

イモリ^しを^しら^ない^ひ人^とも

イモリ^みを^みた^こと^がな^い人^もも

い^がも^くり^に学^{がく}に^に入^に門^{ゆうもん}し^てみ^まよう

イモリ^{いま}の^し今^しを^を知^しっ^てみ^まよう。



いもり学 にゅうもん

Tokyo Zoological Park Society

【足】 ゆびの数を見てみよう



前足は 4 本



後足は 5 本

ゆびはちぎれても
また生えてくる

カエルのなかまは
どうかな？

前足は 4 本

後足は 5 本



同じだね！

【長い尾】 泳ぐときにつかう
バランスをとるの
にも便利だよ



こきゅうをするために
およぎ上がる
ようすを見てみよう



イモリはこんな生き物

せなか

おなか

せなかは黒っぽく、おなかは赤くて黒いようがある

このようは、指紋のように 1 匹 1 匹ちがう

赤いおなか「毒を持っているぞ！」という

危険信号なんだって。

イモリやニホンイモリともよばれるよ

アカハライモリ

英名：Japanese fire belly newt

学名：Cynops pyrrhogaster

分類：両生綱有尾目イモリ科

分布：本州・四国・九州（日本固有種）



【大きな口】

大きな口で昆虫やミミズなどを
パクッと飲みこむ けっこう
大きなエサも食べられるよ

【オスとメス】

オス



大きさ 7 ~ 11 cm

尾の形がちがう

メス



大きさ 8 ~ 14 cm

オスは繁殖のときになると
体の色が変わる
とくに尾が青白くなって
目立つようになるよ



目立つ尾をふるわせてメスをさそうんだ

イモリがくらす場所



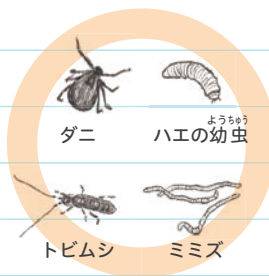
イモリは平野から山地にかけての田んぼや水路、小川、池、湖、湿地など、多様な水辺にくらしている。むかしはだれでも見たことがある、とても身近な生き物だったんだ。

イモリの食べ物

口に入るものは何でも食べるよ

水中でくらしっているとき

陸上でくらしっているとき



イモリの一生

イモリは水中に卵を産む。*2、3週間でふ化した幼生は、しばらくの間、水中でくらすよ。2、3カ月たつと変態し、陸に上がって2、3年間は陸上生活をする。この時期、どのようなくらしをしているのかは、じつはよくわかっていないんだ。

* 水温 20℃の場合

水中

【卵】



4〜7月に産卵

卵はゼリーのようなものに包まれていて、1粒ずつ水草などに産みつけられるよ。

寿命は10年以上
長いものでは20年以上の記録があるよ。

*2、3週間でふ化

【幼生】



卵からふ化した幼生には、小さな前足が生えているよ。後足はしばらくすると生えてくるんだ。ひらひらのエラが頭の後側から外に出ていて、水中で呼吸するよ。尾には泳ぐためのひれもある。

【成体】



水中と陸上を行ったりきたりしてくらすよ。
産卵は4〜7月に水中でおこなうんだ。

2、3年で成熟

【幼体】



ふ化から2、3カ月後、外に出ていたエラや尾ひれがなくなり、イモリらしい姿になって、陸にあがる。その後、2、3年ほど陸上でくらすんだ。

陸上

イモリウォッチングのすすめ

都立動物園・水族園（上野動物園・多摩動物公園・葛西臨海水族園・井の頭自然文化園）では、イモリを展示しているよ。
繁殖期のオスの求愛やメスの産卵行動なども見られるかもしれない。



イモリは減っている

イモリは、むかしは田んぼや水路、池などで、ごくふうに見られた生き物だった。しかし、田んぼや池などの水辺は、都市化にともない開発され、どんどんなくなってしまった。川の護岸、田んぼの整備工事、農薬などもイモリを追いつめている。今では、都内でイモリを見るのはとても難しくなってしまったんだ。

都道府県がまとめている、絶滅のおそれのある野生生物のリスト「レッドリスト」では、東京都だけではなく、関東地方全ての県で絶滅が心配されていることがわかるよ。



開発で失われる生息地

イモリがくらしにくいには、田んぼや小川などの水辺だけでなく、草地や雑木林など陸上の環境も必要なんだ。

イモリの絶滅のおそれ (関東地方・全国)



	レッドリスト 公表年	絶滅のおそれ
東京都	2020	23区 多摩地区
千葉県	2019	
埼玉県	2018	
群馬県	2012	
栃木県	2017	
神奈川県	2012	
茨城県	2015	
全国	2020	

イモリだけではない

減っている水辺の生き物

減っているのはイモリだけではない。カエルや水生昆虫など、かつて身近だった水辺の生き物が数を減らしている。

都立動物園・水族園では、身近だった水辺の生き物の展示とおして、その生態や現状を伝えるとともに、東京のカエルやサンショウウオなど、減っている種の飼育下繁殖にも取り組んでいるんだ。



トウキョウダルマガエル
東京都区部では絶滅の危険性が極めて高い



ゲンゴロウ
東京都全域で絶滅

イモリを守るために

都立動物園・水族園（上野動物園・多摩動物公園・葛西臨海水族園・井の頭自然文化園）は、東京のイモリの保全活動を行っています。

1. 始めたきっかけ

1999年、イモリの展示を計画し、都内にすむイモリを探しましたが、なかなか見つかりません。やっと見つけた場所は、そのときすでに、すんでいるイモリの数は少なくなっていました。産卵できる場所がほとんどなく、若いイモリは見つからないことから、このままではいなくなってしまうのでした。

3. わかってきたこと

▶ 産卵に必要な条件

イモリは生きた植物に卵を産みつけるので、産卵池には、水辺の植物が育つことができるような日当りが必要です。また産みつけた卵が干上らないように、池の水位があまり変わらないことが大切です。

▶ イモリの行動範囲

イモリは池を離れて陸の上を移動します。数は少ないですが、これまでに100mくらい離れた池の間を移動したイモリも見つかっています。

▶ 若いイモリが増えるには

産卵できる池をつくった翌年（2003年）から卵は見つかるようになりましたが、幼生はなかなか見つかりませんでした。池の改良を重ね、2005年頃からようやく幼生も見つかるようになり、2008年からは新たに見つかった若いイモリが増えてきました。これは、産卵できる池をつくった効果だと考えられます。

▶ すんでいるイモリの数

2008年以降、イモリは順調に増え、2014年には400匹くらいになりました。これは、イモリを捕まえて1匹ずつ区別する調査によってわかったことです。

2. やってきたこと

イモリを増やすため、産卵できるような池をつくりました。イモリがどのくらいすんでいるのかをしらべるため、イモリを捕まえて、1匹ずつ区別するため、お腹の 모양や体長、性別を記録してから放しました。つくった池で産卵するようになってからは、卵やふ化した幼生の数を数えました。

【東京都内に残る貴重な生息地での活動】



4. わからないこと

池の中にいるイモリをつかまえるのとは違い、池から離れてくらしているイモリは、どこにいるのかわからないので探すのも大変です。これまでに陸上で見つかったイモリは数匹しかなく、陸上でくらしふりはほとんどわかっていません。また、順調に増えてきたイモリが2015年以降、減少傾向にあり、現在その原因の追及と対策に取り組んでいます。

5. 飼育下での取り組み

都立動物園・水族園は、200個体ほどのイモリを飼育し、維持しています。都立動物園・水族園では、2009年から飼育下での繁殖に成功しました。今後繁殖を続け、野生からとってこなくても展示が続けられることをめざしています。